

2020 年 1 月 28 日

2019 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
修士課題研究

論文題目

若者を対象とした緊急避妊薬についての
知識を普及する教育媒体の開発

Disseminating Knowledge about Emergency Contraceptive Pills for Young Adults:
Development of Web-based Sex Educational Material

学籍番号 18MW010

氏名 高見真由

論文要旨

【目的】 若者の性行動や避妊行動の実態、緊急避妊薬に対する知識とその態度に関する調査結果を基盤に、若者のニーズに合った教育媒体としてウェブサイトを開発することである。

【方法】 ①第1段階:15歳から24歳の若者を対象とし、性行動と避妊行動の実態、避妊や緊急避妊薬の情報源、緊急避妊薬の知識及び印象を無記名自記入式質問紙にてウェブ調査を行った。量的データは単純集計及び統計ソフト SPSS を使用して度数と記述統計量を算出し、質的データについては研究協力者が実際に緊急避妊薬に対して抱く印象を抽出した。②第2段階:調査で得られた結果を基に、若者を対象とした緊急避妊薬についての知識を普及するウェブサイト「もしも、のためのアフターピル」を開発した。本調査は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を受けてから実施した。（承認番号：19-A068）

【結果】 197名の研究協力者から回答を回収し、平均年齢は22.6歳（ $SD=2.07$ ）であった。①性交経験者176名のうち、避妊をせずに性交をしたことがある者は102名（58%）、避妊失敗経験のある者は60名（34%）、緊急避妊薬の使用経験がある者は58名（33%）であった。緊急避妊薬の知識テストの平均点は5.9点（7点満点中）で、緊急避妊薬について詳しく知っていると回答したのは104名（53%）であった。平均年齢は、避妊失敗経験のある群（ $t=3.269$ 、 $p=0.001$ ）と緊急避妊薬の使用経験がある群（ $t=2.657$ 、 $p=0.009$ ）で有意に高かった。また、知識テストの平均点数は、性交経験がある群（ $t=2.367$ 、 $p=0.027$ ）、避妊失敗経験がある群（ $t=2.409$ 、 $p=0.017$ ）、緊急避妊薬使用経験がある群（ $t=2.736$ 、 $p=0.007$ ）で有意に高かった。さらに質的データでは、緊急避妊薬についての否定的な印象の方が肯定的な印象よりも5倍多かった。②これらの結果を基に、様々な避妊法の紹介、性について誤った情報の訂正、緊急避妊薬の作用・副作用と具体的な入手方法や使用の流れについての説明、また若者が安心して使用することのできる性の情報媒体の紹介等の内容を盛り込んだウェブサイトを作成した。

【結論】 若者の性の健康への意識は高いとは言えず、望まない妊娠の可能性のある性交はしばしば行われている。開発したウェブサイトにより、若者に正しい知識を提供することで緊急避妊薬の使用とその知識が普及し、リプロダクティブ・ヘルス／ライツへの行動や意識を向上させる効果が見込まれると考える。